

# 世界の文化遺産を護る

組織委員会挨拶	2
文部省挨拶	3
アジア地域の世界遺産と本書における文化財修復地域	4

## Aセッション 基調講演

世界の文化遺産を護る - 国際協力と日本の役割	伊藤 延男	10
はじめに / 国内研究者、技術者の身分上の相違 / 国内研究者、技術者の能力発揮の場所 研究費、事業資金の問題 / 相手国の問題、協力の中身 / 私の国際協力 / スリランカの思い出 / まとめ		

## Bセッション 木造建造物を護る

ベトナム・フエ王廟の保存修復	重枝 豊	20
ベトナム人の性格 / フエの遺跡群の特徴 / 修復事業の基本姿勢 / 修復作業により新しい発見が 修復による破壊のメカニズムの解明 / ベトナムでの修復事業の問題点		
ベトナムの民家調査と保存修復	友田 博通	31
研究助成金によるベトナム民家調査 / ベトナム民家の地域的特徴 ベトナム民家史解明に向けての仮説 / ホイアンの家屋形式に対する解釈 JICA 開発パートナー制度による民家の保存修復 文化財修復と観光・地域生活・技術移転の波及効果 / おわりに		
ブータンの歴史的建造物と集落の保存技術協力	江面 嗣人	38
ブータンでの協力事業の目的 / ブータンの歴史的建造物 修理・保存にかかわる技術者の育成 / ブータンの歴史的建造物の調査 / 今後の発展		

## Cセッション 土の建造物遺跡を護る

中国・交河故城の保存修復	矢野 和之	48
交河故城の沿革 / 都市の構造と遺構 / 建物の構造 / 交河故城の現状 / 保存整備の方針 実施工事の概要 / おわりに		
エルサルバドル・チャルチュアパ遺跡の 土製建造物の発掘と修復・保存活用	大井 邦明	57
はじめに / エルサルバドルの土の建築文化とチャルチュアパ遺跡 チャルチュアパ遺跡カサブランカ地区の発掘調査と建造物の修復 カサブランカ地区1号建造物の発掘と修復 / 建造物の発掘調査には修復を同時に行うことが必要 建造物の修復における留意点 / 修復材料について 日干しレンガの製作・使用と土の結合強化硬化剤 / カサブランカ地区5号建造物 5号建造物の特徴 / 考古学調査と現地社会 / 考古学者の育成 / おわりに		

## Dセッション 石造の建造物と遺跡を護る

カンボジア・アンコール遺跡バイヨン北経蔵の保存修復	中川 武	70
はじめに / 保存修復のための基礎的科学調査 / クメール建築の特徴と変遷 アンコール・ワットの構成 / 世界遺産としてのアンコール遺跡の意味 尊顔塔はなにをあらわすか / 北経蔵の保存修復工事 / 北経蔵基壇の修復 / 保存修復スタッフの養成		

# 目次

パキスタン・ガンダーラ遺跡の保存修復	増井 正哉	78
ガンダーラと東西文化の交流 / ガンダーラ遺跡とその現状 / 遺跡の整備と保存修復の歩み		
ユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるガンダーラ遺跡保存プロジェクト		
ラニガト遺跡におけるモデル事業 / ラニガト遺跡保存の問題点 / モデル修復事業の推進		
チリ・イースター島モアイ石像の保存修復	沢田 正昭	90
イースター島とモアイ石像 / モアイ石像再建の経緯 / モアイ石像の再建計画		
モアイ石像の強化法と塩類風化対策 / 保存材料の強度試験 / 曝露試験経過		
<b>Eセッション 国際機関、国際条約と日本の役割</b>		
ユネスコの役割と日本の貢献	野口 英雄	100
はじめに / 世界の文化遺産・遺跡 / 多様な文化遺産 / ユネスコ憲章 / ユネスコの機構		
日本の貢献 / 文化遺産保護のための国際法 / 国際協力の推進		
ICCROM(文化財保存修復研究国際センター)		
ICOM(国際博物館会議)の役割と日本の貢献	三浦 定俊	109
イクロムとは / イクロムの組織 / イクロム事務局の構成と活動 / イクロムの活動例		
イクロムにおける日本の貢献 / イコムの活動		
イコモス(国際記念物遺跡会議)の役割と日本の貢献	宗田 好史	116
イコモスの設立経緯 / 3つの時代の、3つの貢献 / イコモス3つの広がり		
発展途上国への広がり / 市民社会への広がり / 京都の町家の保存運動		
グローバル化とローカリゼーションの間で / 文化遺産保護の取り組みを広げるために		
文化遺産に関する国際社会の動向	斎藤 英俊	124
国際協力における機関・組織 / 国際機関・組織の活動内容 / 文化遺産の危機管理と災害救助		
世界遺産の危機管理プログラム / ブルーシールド国際委員会 / 文化遺産と自然遺産		
文化的景観のカテゴリー / 人類の口承および無形遺産 / 近代の遺産および産業遺産		
日本における近代化遺産の保存 / 産業遺産の保存 - ルール地方の例 - / 文化遺産の多様性 / おわりに		
<b>Fセッション レンガ造の建造物と遺跡を語る</b>		
ルーマニア・プロボタ修道院の保存修復事業	三宅 理一	136
モルドバ地方の特徴 / ルーマニア最古の教会建築群 / 保存修復への取り組み		
保存修復事業の推移とユネスコ / 保存修復組織の立ち上げ / 修復作業の内容 / まとめ		
イラン、チョガー・ザンビール遺跡の保存修復	岡田 保良	147
チョガー・ザンビール遺跡の成り立ち / チョガー・ザンビール遺跡の発見		
ジグuratの規模と特徴 / 宮殿地下の王墓遺構 / 遺構の応急処理		
保存修復事業のプロセス / 現状と展望		
タイ・スコタイ遺跡の大仏の保存修復	西浦 忠輝	156
はじめに / 大仏の状況 / 環境調査 / 基本的保存修復対策 / 予備実験		
保存修復処理施工 / 現状と今後の課題		

Gセッション パネルディスカッション

文化遺産の保護と国際協力 - よりよい保存修復協力に向けて…………… 168

**野口 英雄 / 石澤 良昭 / 中川 武 / 西浦 忠輝 / 友田 博通 / 宗田 好史**

はじめに / 文化遺産の保存修復事業の基本条件

カンボジアの事例から - カンボジア人によるカンボジア人のためのカンボジアの遺跡保存修復を  
技術移転と人材養成 / 学ぶ姿勢と相互理解こそが国際協力の基本

町並み保存と観光 - 地道な技術移転が最大の成果 / 市民の力で護ることができるシステムを  
どのように技術移転すべきか / ハイテクよりもやわらかな技術を / 住民を巻きこんだ活動を  
現地の技術、現地のやり方を尊重 / 技術研修は現地・現場で

なぜ、文化遺産の保存修復に協力するのか / 日本の近代化による文化財保存の体験を伝える  
修復を通して基礎研究での貢献を / なぜ、文化遺産を護るのか / 研究成果の地元への還元を  
日本人の人材養成も不可欠 / 個人レベルでのクレオール

演者紹介…………… 189

# パキスタン・ガンダーラ遺跡の保存修復

増井 正哉

奈良女子大学生生活環境学部助教授

京都大学は1957年から中央アジアのイラン、アフガニスタン、パキスタンに学術調査隊を送り、いくつかの遺跡で発掘調査を行ってきました。私がパキスタンのガンダーラ遺跡とかかわりだしたのは17年前の83年です。当時、大学院の学生で、西川幸治教授が組織された調査隊のメンバーとしてパキスタンのラニガト遺跡の発掘調査に加わりました。発掘調査は92年に終了し、その後、94年からユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるガンダーラ遺跡保存プロジェクトが始まると、遺跡修復に参加し、96年から全体のマネージメントを担当しています。

## ガンダーラと東西文化の交流

ガンダーラというと、その西洋的な風貌の仏像が親しまれていますが、もともとはインド亜大陸北西辺境の古名で、現在のパキスタン北西辺境州ペシャワール盆地をさしています(図1)。この地域は、インド亜大陸と中央アジアを結ぶ結節点に位置し、クシャーーン朝期(1~3世紀)に独特の仏教文化をはぐくんだことで知られ、東西文化の交流に関心をもつ人々の関心をひきつけてきました。現在も

仏教寺院址をはじめ数多くの遺跡が残っています。ちなみに、北西辺境州の州都ペシャワールはカニシカ王の都ブルシャブラです。

ところで、仏教では仏陀はおそれおおい存在ですから、そのお姿を絵に描いた仏像はもともとは存在しませんでした。そのかわりに法輪、菩提樹、仏鉢、ストゥーパ(仏塔)などを拜んでいました。ところが、紀元前3世紀ごろからアレキサンダー大王の東征に従軍してきたギリシア人の王様がガンダーラ一帯を治めるようになり、ギリシア的な文物が伝わり、仏教と融合して仏像を描くようになります。それにより、ヨーロッパ風の風貌をもった独特の仏教美術が形成されたのです。その意味で、ガンダーラは仏教史上、重要なのです。

## ガンダーラ遺跡とその現状

ここで2つの代表的なガンダーラ遺跡を紹介しておきましょう。パキスタンの首都イスラマバードの近郊にタキシラ遺跡があります。そのなかの代表的な都市遺跡がシルカップです。シルカップでは都市の中央に通路があり、ギリシア風の都市計画が認められます。また、

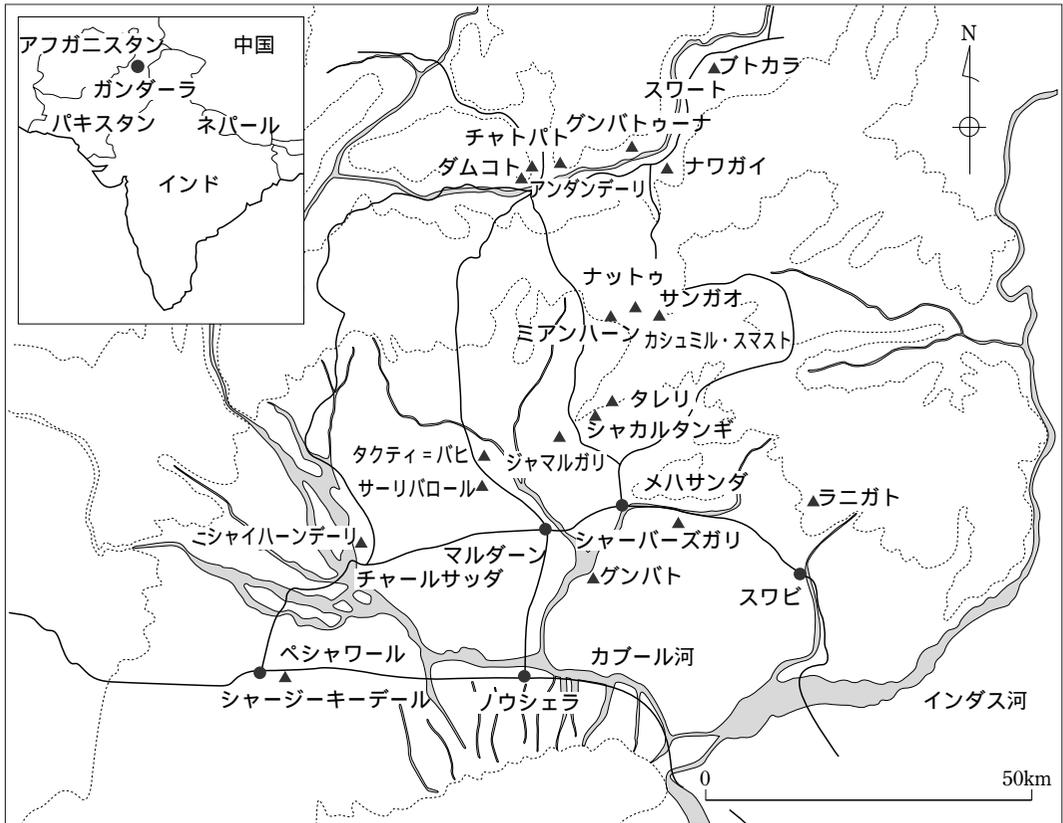


図1 ガンダーラ地方要図

ギリシアでは離れた場所にアクロポリスの丘がありますが、ここではクナーラ塔という仏教寺院がたてられています。シルカップのなかで有名なのは双頭の鷲のストゥーパです(図2)。双頭の鷲は、イラン的な要素であるといわれています。このほか、このストゥーパにはギリシア風の要素とインド風の要素がみられ、東西文化の交流点であるガンダーラ建築の特徴を示しています。

タキシラが平地の遺跡の代表格であるとするれば、タクティ=バヒ遺跡(図3)は山の遺跡の典型例です。ペシャワール盆地にはあちこちに小高い山があります。それらの山の上には、かならず何らかの遺跡があるといっても過言ではありません。



図2 双頭の鷲のストゥーパ

伽藍は中央の塔院を中心に周囲の尾根上に広がっています。塔院を詳しくみてみますと、中心の塔の基壇の周りに祀堂があり、そのな